十八史略

臥薪嘗胆　―訓読―

臥薪嘗胆

【第一段】呉王闔廬、伍員を挙げて国事を謀らしむ。員字は子胥、楚人伍奢の子なり。奢誅せられて呉に奔り、呉の兵を以ゐて郢に入る。

【第二段】呉越を伐つ。闔廬傷つきて死す。子の夫差立つ。子胥復た之に事ふ。夫差讎を復せんと志し、朝夕薪中に臥し、出入するに人をして呼ばしめて曰はく、「夫差、而越人の而の父を殺ししを忘れたるか。」と。

【第三段】周の敬王の二十六年、夫差越を夫椒に敗る。越王句践、余兵を以ゐて会稽山に棲み、臣と為り妻は妾と為らんと請ふ。子胥言ふ、「不可なり。」と。太宰伯嚭越の賂を受け、夫差に説きて越を赦さしむ。

【第四段】句践国に反るや、胆を坐臥に懸け、即ち胆を仰ぎ之を嘗めて曰はく、「女会稽の恥を忘れたるか。」と。国政を挙げて大夫種に属し、而して范蠡と与に兵を治め、呉を謀るを事とす。

【第五段】太宰嚭子胥謀の用ゐられざるを恥ぢて怨望すと譖す。夫差乃ち子胥に属鏤の剣を賜ふ。子胥其の家人に告げて曰はく、「必ず吾が墓に槚を樹ゑよ。槚は材とすべきなり。吾が目を抉りて東門に懸けよ。以て越兵の呉を滅ぼすを観ん。」と。乃ち自剄す。夫差其の尸を取り、盛るに鴟夷を以てし、之を江に投ず。呉人之を憐れみ、祠を江上に立て、命けて胥山と曰ふ。

【第六段】越、十年生聚し、十年教訓す。周の元王の四年、越呉を伐つ。呉三たび戦ひて三たび北ぐ。夫差姑蘇に上り、亦成を越に請ふ。范蠡可かず。夫差曰はく、「吾以て子胥を見る無し。」と。幎冒を為りて乃ち死す。